

2025/8/9 中日新聞

パネル展「よみがえれ長良川 2025」

清流長良川 豊かな魅力紹介

メディコス 環境考えるパネル展



アユのイラストを探す子ども 岐阜市司町で

長良川の環境や生態系の変化を考えるパネル展が8日、岐阜市司町のぎふメディアアコスモスで始まった。

入場無料。10日まで。清流長良川の環境へ関心を持ってもらおうと、市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」が企画。アユやサツキマス、タナゴなど長良川とその支流に生息する魚の絵や写真、実物を展示。自然豊かな川の魅力を紹介する一方で、今年で本格運用から30年がたった長良川河口堰（三重県桑名市）など、生態系の変化にまつわる課題も解説する。子どもが参加できるクイズもあり、参加者には特製ステッカーがもらえる。10日午後1時ごろには、長良川に見立てた巻き紙に魚の絵を描くイベントも開く。実行委の事務局長で岐阜市の武藤仁さん(75)は「川の現状を若い世代に知ってもらい、課題について一緒に考えていきたい」と話した。(大谷津元)



ワークショップで魚の絵を描く親子 岐阜市司町 みんなの森ぎふメディアアコスモス

「紙の長良川」魚いっぱい

パネル展でお絵描き体験

長良川の現状と課題を伝えるパネル展「よみがえれ長良川」の最終日の10日、会場となった岐阜市司町のみんなの森ぎふメディアアコスモスで、版画家岩田健三郎さん(77)が「兵庫県姫路市」を迎えた子ども向けのワークショップが開かれ、横2メートル、縦60センチの巻紙に親子連れが魚の絵を描いた。

岩田さんは1997年発行の「えほん長良川」の作者。中津川市のフォークシンガー故笠木透さんの詩「長良川」にのせる形で、源流から河口部まで流域の

暮らしや泳ぐ魚の姿を鳥の目線で紹介している。ワークショップで「サツキマスと描くんだよ」と手本に鮎の絵を示すと、子どもたちは鉛筆を取って水彩で思い思いに描いた。岩田さんは「鮎だけでなくオオサンショウウオやフナも描いていて、この地域の子どもの川への関心の高さを感じた」と感嘆していた。フォークグループ「雑花

塾」の元メンバーの増田康記さん(74)が「郡上市」らによるミニコンサートもあり、会場一回で「このままで、このままで流れよ」と「長良川」を合唱した。ワークショップは長良川河口堰（三重県桑名市）の開闢調査を求める市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」が、河口堰を知らない若い世代にアピールしようと開催した。(堀尚人)

2025/8/11 岐阜新聞